

HDS004-P02

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 09:00-10:45

## フィリピン地震火山監視強化と防災情報の利活用推進: その2 Enhancement of Earthquake and Volcano Monitoring and Utilization of Disaster Information in the Philippines: Part 2

井上 公<sup>1\*</sup>, 熊谷 博之<sup>1</sup>, 木股 文昭<sup>2</sup>, 長尾 年恭<sup>3</sup>, レナート・ソリドゥム<sup>4</sup>, バート・パウティスタ<sup>4</sup>  
Hiroshi Inoue<sup>1\*</sup>, Hiroyuki Kumagai<sup>1</sup>, Fumiaki Kimata<sup>2</sup>, Toshiyasu Nagao<sup>3</sup>, Renato Solidum<sup>4</sup>, Bart Bautista<sup>4</sup>

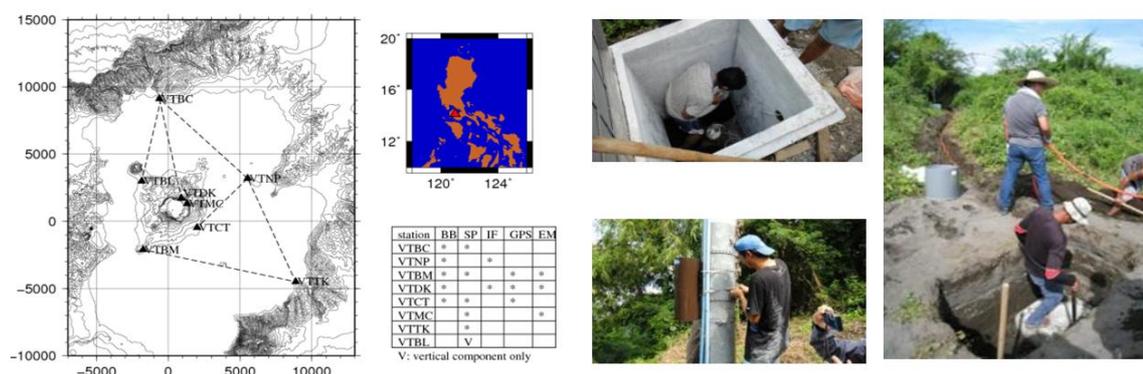
<sup>1</sup> 防災科研, <sup>2</sup> 名大地震火山センター, <sup>3</sup> 東海大予知研究センター, <sup>4</sup> フィリピン火山地震研究所

<sup>1</sup>NIED, <sup>2</sup>Cent.Seis.Volc., Nagoya Univ., <sup>3</sup>Res.Cent.Earthq.Predict, Tokai Univ., <sup>4</sup>PHIVOLCS

地球規模課題対応国際科学技術協力事業 (SATREPS) の研究課題「フィリピン地震火山監視能力強化と防災情報の利活用推進」(2010-2014) では、フィリピン火山地震研究所 (PHIVOLCS) と共同して (1) リアルタイム広帯域地震・強震・震度観測網と自動震源解析システムの導入による迅速で正確な震度分布と被害推定、(2)GPS 地殻変動および断層地質地形調査による大地震の発生ポテンシャル評価、(3) タール火山とマヨン火山のリアルタイム監視システムの構築、(4) 地震・火山情報ポータルサイトの構築とその利活用促進を行う。

初年度である 2010 年度は、(A) 全国 5 箇所の衛星テレメタ観測点 (ピラク、ルバング、ギマラス、バタラサ、パガディアン) への広帯域地震計・強震計の整備とマニラの PHIVOLCS への自動震源解析システム (SWIFT) の導入、(B) 震度速報システムのプロトタイプソフトウェア開発と PHIVOLCS における試運転、(C) ミンダナオ島における GPS キャンペーン観測と過去のデータの解析、および GPS 連続観測点 (ミンダナオ島ブツアン、タンダグ) の整備、(D) タール火山における 5 箇所の広帯域地震計、2 箇所の空振計、3 箇所の GPS、3 箇所の電磁気観測装置の整備とテレメタシステムの導入、を行いデータ取得と解析が開始された。また、(E) 防災科研 (つくば) の大型振動台を用いて、フィリピンで一般的なブロック組積造ノンエンジニアド住宅の比較倒壊実験を実施した。さらに PHIVOLCS 職員による日本の地震火山観測体制の視察、ならびにマニラにおけるプロジェクトワークショップを実施した。

2011 年度は、更に 5 箇所の広帯域地震計・強震計の設置、自動震源解析システムの運用、震度速報システムのマニラ周辺での試験運用、地震発生ポテンシャル評価のための GPS キャンペーン・連続観測の継続、断層地質・地形調査、タール火山の活動の総合的監視、マヨン火山への地震計・GPS の整備、住宅の簡易耐震診断と地域の脆弱性評価手法開発のための調査・実験、ポータルサイトの設計、等を計画している。



キーワード: フィリピン, 地震, GPS, 火山, 監視, 防災情報

Keywords: Philippines, earthquake, GPS, volcano, monitoring, disaster information